



Peavey® 6505 MH® 20Wチューブギターアンプ

取扱説明書



Peavey® 6505 MH®

Peavey 6505 MHチューブギターアンプをお買い上げいただきありがとうございます。このアンプは、小型ですが、オールチューブのプリアンプとパワーアンプにより、このモデルの元になった大型のアイコンモデルで人気のあるサウンドを、低い出力レベルでも忠実に再現します。主な利点はサイズ(小型)と重量にあります。

20年以上、先進的サウンドを練ってきたPeavey 6505シリーズアンプは、現在のプレーヤーが求める圧倒的オーバードライブサウンドを生成します。Peaveyは6505 MHを‘マイクロヘッド’シリーズの一部と位置づけます。全モデルに多様性がありますが、プリアンプのボイスングやゲイン構造はモデルによってかなり異なります。カントリーピッカーからメタルシュレッダーまで、誰でも少なくともこれらのうち1つは気に入るでしょう。

機能は多く、一部はPeavey独自の機能です。これらの機能については本文で詳しく説明します。

まとめると

モデルはすべて2チャンネル。ゲイン構造と、モデルの元になった大型アンプのボイスングは共通です。ブースト機能はモデルに合わせて設計されています。チャンネルはEQラッシュリバーブとエフェクトループが共通です。チャンネル、ブースト、エフェクトループ、リバーブはすべてフットスイッチに対応しています。

リアパネルの他の機能は次のとおりです。エフェクトループ、マイクシミュレートダイレクトインタフェース (MSDI™)、XLR出力、USB出力、スピーカーディフィートスイッチ、3ポジション出力減衰器スイッチ。

6505 MHは小型パッケージで幅広い多様性を実現しています。特にリアルなチューブトーン、チューブパワーに注目。シミュレーション、エミュレーション、近似はありません。

アンプを使用する前に、本製品の AC 電源電圧が正しいか確認することは非常に重要です。これは本体リアパネルにあるIECインレット近くの電圧セレクトスイッチに記載してあります。番号の横の機能については、このマニュアルのリアパネル図を参照してください。

アンプの安全および人身の安全を守るため、本書をよくお読みください。本書をよく読むことは、多くの機能を十分理解してアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

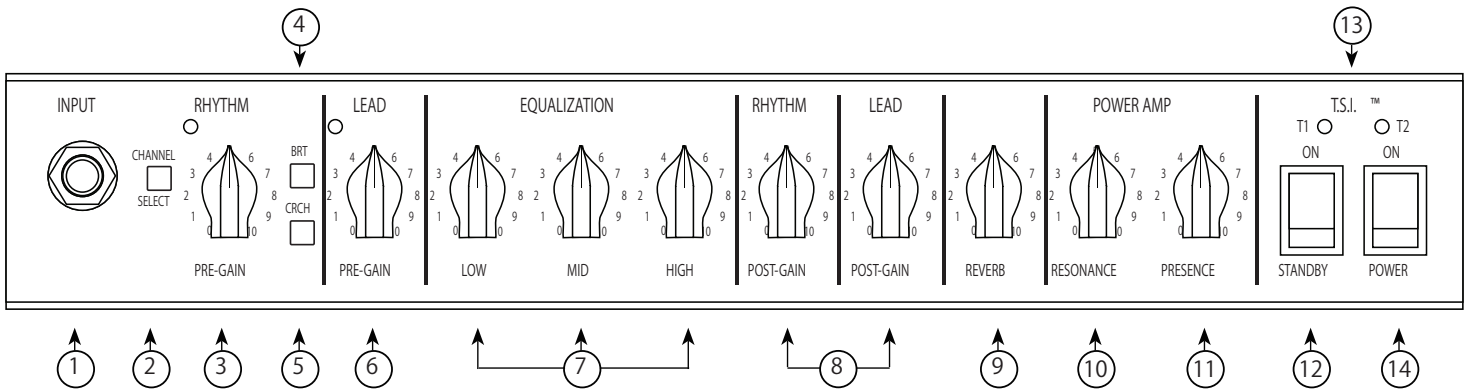
特徴

- 2x EL84/パワーチューブ、3x 12AX7/ECC83プリアンプチューブ
- フットスイッチ対応チャンネル(2)、3バンドEQ
- フットスイッチ対応ゲインブーストリズムチャンネル
- フットスイッチ対応リバーブ
- フットスイッチ対応バッファードエフェクトループ
- チューブステータス表示 (T.S.I.) 回路
- インピーダンススイッチ、16/8オームキャビネット用
- MSDI™ 出力、XLR、グラウンドリフトスイッチ
- USB出力
- スピーカーディフィートスイッチ
- ヘッドホン出力
- 減衰器スイッチ。出力20ワット、5ワットまたは1ワット



換気:換気をよくするため、本体と可燃物表面の間は 24" (約 60 cm) 以上空けてください。

本体内を空気が流れて冷却できるように、すべての通気口に 2" (約 5 cm) の空きスペースを設けてください。



- ① 入力
標準1/4"ジャック。ギターまたはアンプ前にエフェクトを使用する場合は最後のペダルの出力に接続。
- ② チャンネルスイッチ
2つのチャンネルを選択します。スイッチの"イン"位置はリードチャンネル、"アウト"位置はリズムチャンネルを選択します。
注:チャンネルは付属のフットスイッチからも選択できます。
リモートで選択する場合、チャンネルスイッチ(#2)を"イン"位置にセットする必要があります。
- ③ リズムチャンネルのプリゲイン
リズムチャンネルのボリュームとゲインレベルを調節します。
- ④ BRT(ブライト)スイッチ
リズムチャンネルのみ高周波をブーストします。アクティブにするにはスイッチを"イン"位置にします。
- ⑤ CRCH(クランチ)スイッチ
これは'ブースト'機能です。リズムチャンネルをかなりクリーンなサウンドから"クランチ"なオーバードライブサウンドに切り替えます。スイッチの"イン"位置は'クランチ'サウンド、"アウト"位置はよりクリーンなサウンドを選択します。
注:これらのサウンドはチャンネル切替えに使用するものと同じフットスイッチでも選択できます。リモートで選択する場合、CRCHスイッチ(#5)を"イン"位置にセットする必要があります。
- ⑥ リードのプリゲイン
リードチャンネルの入力ボリュームレベル、したがってゲインとオーバードライブの量を調節します。
- ⑦ ロー、ミッド、ハイEQコントロール
両チャンネルの低周波、中間周波、高周波(トレブル)を調節するパッシブトーンコントロールです。
- ⑧ リズム、リードポストゲインコントロール
それぞれリズムとリードのチャンネルの出力レベルを調節します。一度に使用できるのは1つだけです。どちらのチャンネルが選択されているかによります。ボリュームを設定し、2つのチャンネル間でサウンドのバランスをとるために使用します。リズムポストゲインは、クリーンなリズムサウンドと'クランチ'リズムサウンド両方の出力レベルを調節します。
- ⑨ リバーブ
全体のリバーブレベルを調節します。反時計回りに回し切るとリバーブのない全くの"ドライ"、低い設定にするとかすかなリバーブ、高い設定では豊かなアンビエンスになります。この機能はオプションのリモートフットスイッチからも調節できます。

⑩ レゾナンス

この機能は、パワーアンプセクションの低周波応答と減衰係数を細かく調節します。高い設定のとき、スピーカーは低周波で比較的自由に動き、ローエンドレスポンスがはっきりします。

⑪ プレゼンス

このコントロールは、パワーアンプセクションの高周波レスポンスと減衰係数を細かく調節します。高い設定のとき、スピーカーは高周波で比較的自由に動き、ハイエンドレスポンスがはっきりします。

⑫ 出力チューブステータス表示 (T.S.I.™) LED

モニター対象出力チューブのステータスに応じて緑色または赤色に点灯するLEDです。これより幅広いステータス表示回路、障害検出回路、チューブ保護回路を目に見える形にしたものです。LED T1、T2は、前面から見て左から右の順にEL84/パワーチューブに対応します。

この回路を簡単に説明すると、通常の動作モードのときLEDは緑色、次を含む他のモードのとき赤色になります。スタンバイ、低バイアス、低電流(チューブ出力低下)またはチューブ保護回路でアクティブ化する高電流障害状態です。



詳細は次のとおりです。

スタンバイではLEDは赤色です。これはチューブがまだ完全にオンになっていないためです。

スタンバイからオンに切り替わると赤色から緑色に変わります。

通常の動作条件下、LEDは緑色です。

LEDが赤色になると、次の理由から出力チューブは正常に動作していません。

- チューブが'低電流':これはバイアスが正しくないか、エイジングによる低電流、構造上/物理的な障害による開回路、またはフィラメントヒーター電源がないために起きます。

- チューブが'過電流':この場合、リセット可能な保護回路がオンになり、破損が大きくなるのを防ぎ、アンプが残りのチューブで動作を続けられるようにします。これはバイアス障害、チューブの過熱または他の障害によって生じ、電流の引き込みが過剰になります。



リセット:場合によっては(再生に間を置くことで)保護回路が自動的にリセットされ、チューブがオン状態に戻ります。障害が残る場合、LEDは赤色のままです。このような状態では、あるポイントでアンプが数分間オフになって再びオンに戻ります。まだ障害が残る場合、資格のある技術者がアンプをチェックし、出力チューブのバイアスが正しいか、チューブに障害がないか確認する必要があります。



⑬ スタンバイスイッチ

このスイッチを"スタンバイ"位置にすると、アンプはオフになりますが、チューブのフィラメントはオンのままです。このスイッチは、電源スイッチを(#14)をオンにした後、少なくとも1分間は"スタンバイ"位置にしておきます。これも便利な機能です。チューブの磨耗の大半はチューブ自体の加熱と冷却によるものだからです。休憩中など本体を"スタンバイ"にしておくと、再生していない間はチューブは暖かいです。ウォームアップの遅れなく通常のアンプ動作をすぐに再開するには、スイッチを"オン"位置にします。注:このスイッチは電源スイッチ(#14)に代わるものではありません。長い時間再生を止めることができる場合は、電源スイッチで(#14)アンプをオフにするほうがいいです。不要なノイズを防ぐため、アンプを完全にオフにする前に少なくとも数秒間は"スタンバイ"にすることをおすすめします。

* "スタンバイモード"の時間が長過ぎる場合(1時間以上)、これは"カソードがダメになる"ため出力チューブが破損する原因になります。



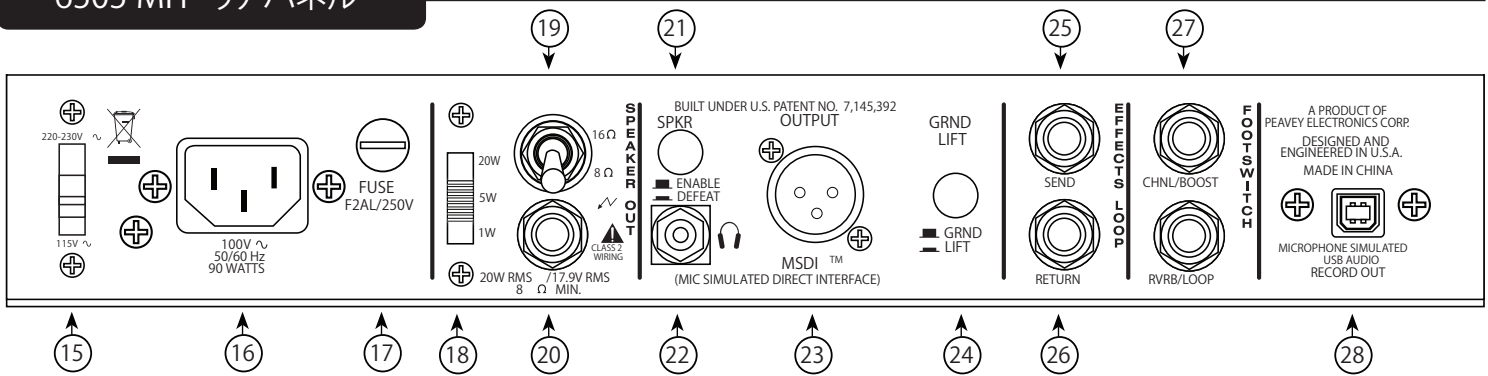
* スタンバイ機能について詳しくは、本ディスクに付属のHartley Peaveyのホワイトペーパー第6章(スタンバイ…本当は)をご覧ください。

14 電源スイッチ

電源を本体に供給するには、電源コードを接続してこのスイッチをオン位置にします。4つのフロントパネルLEDのうち3つは点灯して電源が入っていることを知らせます。アンプを初めてオンにする時、スタンバイスイッチ(#13)はスタンバイにセットするのが一番です。

スタートアップの正しい手順は次のとおりです。

- *使用前、スイッチはどちらも'下'位置にしてください。
- *電源をオンにします。アンプが暖まるまで1分以上待ちます。
- *次にスタンバイをオンにします。アンプを通常どおり使用します。
- *スタンバイに切り替えて少し休ませます。(曲と曲の間ではなくセット間)
- *演奏後、スタンバイに切り替え、数秒以上置いてから電源をオフにします。



15 電圧セクタスイッチ

2つのACライン/主電源電圧を選択します。通常これはユーザーが調節します。シールドがプラスチックになっているのはそのためです。あらかじめ現地のライン/主電源電圧に設定してあります。

16 AC電源インレット:

本体にAC電源を供給するIEC電源コードのレセプタクルです。電源コードをこのコネクタに接続して電源を本体に供給します。本機の破損は、電源電圧が適合しないことによって起こる可能性があります。(電圧セクタスイッチ#15を参照)。

どのような機器でもグランドピンは決して取り外さないでください。グランドピンは安全のために取り付けてあります。使用するコンセントにグランドピンがない場合は、接地アダプタを使用し、3番目のワイヤを正しく接地してください。感電や火災の危険をなくすため、アンプおよび関連するすべての機器が正しく接地されているか常に確認してください。

Note for UK ONLY

As the colors of the wires in the mains lead of this apparatus may not correspond with the colored markings identifying the terminals in your plug, proceed as follows: (1) The wire that is colored green and yellow must be connected to the terminal that is marked by the letter E, or by the Earth symbol, or colored green or green and yellow. (2) The wire that is colored blue must be connected to the terminal that is marked with the letter N, or the color black. (3) The wire that is colored brown must be connected to the terminal that is marked with the letter L, or the color red.

感電のリスクをなくすため、本体に電源が供給されているときに、空いているチューブソケットに指などを入れることは避けてください。

17 ヒューズ


このヒューズは、ヒューズホルダのキャップ内にあります。ヒューズが切れた場合、機器の破損を避けるため、また保証が無効になるのを防ぐため、同じタイプ、同じ値のものと交換する必要があります。アンプによってヒューズが繰り返し切れる場合は、指定サービスセンターに修理を依頼してください。

警告: ヒューズを交換する前に必ず電源コードを電源から抜いてください。

18 出力スイッチ

減衰器を調節する3ポジションスイッチです。アンプの最大出力を定格出力の100%、25%、5%に切り替えることができます。20ワット、5ワット、1ワットです。これにより、出力ステージをハードにドライブでき、よってパワーアンプの特徴的なオーバードライブが得られますが、スピーカーによって得られる大音量ではありません。

低い設定では、トーンを調節するためにレゾナンスとプレゼンスを少し上げる必要があるかもしれません。これはスピーカーのドライブが少ない場合に減衰係数が変化することによります。

- 19 インピーダンスセレクト
スピーカー/キャビネットのインピーダンス16Ωまたは8Ωを選択します。
同じインピーダンスのエンクロージャ2台をリンクして並列に接続した場合は、スイッチを個々の値の半分にセットします。たとえば16Ωのエンクロージャ2台なら設定は8Ωです。スピーカー負荷の最小インピーダンスは8Ωです。
- 20 スピーカー出力
スピーカー出力は外部スピーカーキャビネットを接続するためのものです。正しいスピーカーケーブルを使用してください。シールドタイプのケーブルは使用しないでください。
負荷インピーダンスはインピーダンスセレクト(# 19)で選択できます。
6505MHは1x12でサウンドが良くなりますが、4x12で試してどうなるかチェックしてみてください。
- 21 スピーカーイネーブル/ディフェルトスイッチ
スピーカー出力(# 20)に接続されたスピーカー/キャビネットを遮断し、出力を内部ダミー負荷にリダイレクトします。これによりMSDI™ 出力、USB出力またはヘッドホン出力からの信号を使い、実際に音を出さずに再生をモニターできます。したがって、かなり低いボリュームレベルで再生、録音ができます。
-  この機能は、キャビネットをスピーカー出力(# 20)に接続せずにアンプを使用する場合に使用してください。
- 22 ヘッドホン出力
ステレオミニジャックを介してヘッドホン/イヤホンに接続するための出力です。
アンプをスピーカーディフェルトに設定すればヘッドホンで音を出さずに練習できます。信号はMSDI™ 回路で得られるため(下記参照)、フィルターされて12"ギタースピーカーのようなトーンになります。
- 23 マイクシミュレートダイレクトインタフェース - MSDI™
Peavey独自のMSDI™ は、12"スピーカーコーンから約8" (20 cm) 離れたマイクの音をシミュレートします。正確で質の良い信号をミキシングコンソールに送ることができ、ステージの他の機器からのアコースティックな音漏れがありません。これは電源を使用しない出力であり、どのようなミキシングコンソールでも安全に使用できますまた自宅での録音にも便利です。
- 24 グランドリフト
このスイッチは、ミックスエンジニアがMSDI™ 出力にハムを聞き取った場合にオンにします。これはグラウンドループをなくすことによってハムをなくします。他の場合'アウト'、'GRND'に設定します。
- 25 エフェクトループセンド
信号を外部のローレベルエフェクトや信号処理機器に送る1/4"出力ジャックです。実際のエフェクトループはフットスイッチ対応ですが、センド出力は常にアクティブなのでプリアンプ信号を別のアンプに送る時に便利です。

26 エフェクトループリターン

信号を外部のローレベルエフェクトや信号処理機器から返す1/4"入力ジャックです。これは切り替えジャックです。プラグをこのジャックに差し込むと、エフェクトSEND(# 25)ジャックからの信号パスが遮断されます。

エフェクトループを使用する場合は自動的にオンになります。ただしフットスイッチはエフェクトループをバイパスするためにも使用できます(下記参照)。

27 フットスイッチジャック

TRS(ティップ、リング、スリーブ)ジャックプラグを使ってフットスイッチを接続します。

トップジャック(CHNL/ブースト):-

‘リング’ (Peaveyフットスイッチの左):プリアンプチャンネルを選択します。

‘ティップ’ (Peaveyフットスイッチの右):リズムチャンネルの‘CRCH’ (クランチ)ブーストを選択します。

ボトムジャック(RVRB/ループ):-

‘リング’ (Peaveyフットスイッチの左):エフェクトループをオン/オフします。

‘ティップ’ (Peaveyフットスイッチの右):リバーブをオン/オフします。

Peaveyフットスイッチは、現在の設定を示すLEDの付いたものと付いていないものがあります。詳細や製品コードについてはwww.peavey.comまたはカスタマーサービスにお問い合わせください。

フットスイッチでチャンネルとブースト機能を切り替えるには、対応するフロントパネルのスイッチを“イン”位置にセットする必要があります。

動作エラーなどが起きないようにするため、フットスイッチを使用するときは常に、プラグを(2回目のクリックが聞こえるまで)フットスイッチジャックに完全に差し込んでください。

28 マイクシミュレートUSB録音出力

USB録音出力は、ドライバを追加する必要がありません — 標準USB 2.0ケーブルをコンピュータに接続すれば、これがオーディオ装置として検出されます。録音プログラムを開いて録音を始めます。出力はMSDI™ から引き出されるので、コンピュータに入るサウンドは良質です。

これは出力(# 18)またはスピーカーディフィート(# 21)スイッチを任意に設定して使用できます。USBオーディオレベルではほとんど違いがありません。したがって、アンプを出力5%に設定したとき、またサイレントに設定していても、良好かつ強い信号を記録できます。

USB出力からの実際の信号レベルはコントロールの設定によって異なります。ただし、本体はそれぞれ、サウンドやレベルのレンジがかなり広くてもUSBヘッドルームにすべて適合するように補正されています。他の録音と同様、特にデジタルの場合、実際の録音レベルは不要な歪みを防ぐように設定してください。

*パワーチューブ

警告!!!パワーチューブ(EL84)を変更した場合はアンプのバイアスも変更する必要があります。これは簡単な手順で行えるように設計してありますが、資格と経験のある技術者/エンジニアが行うようにしてください。これは安全のためだけでなく、サウンドを最適化し、新しいチューブの耐用性を保証するためでもあります。バイアスが適応しないパワーチューブはサウンドが汚れ、生気がなくなるか、磨耗が早くなります。



6505 MH[®]

オールチューブギターアンプの仕様

注) 機能、仕様は予告なく変更することがあります

定格出力：20W(RMS)→8、16Ω

消費電力：(出荷元) 90 W、50/60 Hz、100 VAC

真空管関連：EL84×2、12AX7/ ECC83×3

寸法 (H x W x D)：185mm x 356mm x 197mm
(高さは脚とハンドルを含みます)

重量：6kg

プリアンプ仕様

プリアンプ入力：

インピーダンス：Hi-Z、1MΩ

エフェクトセンド：

ローインピーダンス：Hi-Z、22kΩ以上

エフェクトリターン：

インピーダンス：Hi-Z、100kΩ

設計入力レベル：0 dBV、1.0 V RMS

イコライゼーション：

ベース、ミドル、トレブル
(全てカスタムパッシブEQ)

リモートフットスイッチ：(付属)

専用2 ボタンユニット
LEDインジケータ付属 (#00579720)

チャンネル選択
ブースト機能用フットスイッチ(1)

セカンドフットスイッチは
リバーブ、エフェクトループを
オン/オフするために使用できます

他の仕様

信号ノイズ比：

全モデルで74dB以上(フル出力に対して)
注) プリアンプ設定によって異なります

MSDI出力：

ローインピーダンス：600Ω

出力レベル：全モデルでフル出力時、-12dB (+/-3dB)
注) コントロールによって異なります

USB出力：

出力レベル：全モデルでフル出力時、-6dB(+/-3dB)
注) コントロールによって異なります

出力減衰器：

スイッチで定格出力を3段階に変更、100%、25%、5%
(各々20W、5W、1W)

ヘッドホン出力：

ステレオミニジャックは、ステレオヘッドホン用に出力
各チャンネルのインピーダンス、16Ω - 50Ω



Ippinkan Corporation
Musical Instruments Division

株式会社 逸品館

〒223-0052 神奈川県横浜市港北区綱島東6-8-20

Tel : 045-633-7530 Fax : 045-633-7531

E-mail : ippinkan.mi@otoiwase.jp

Web : <http://peavey.jp/>